

富士見町釜無川上流域で確認されたハナハギ

竹重 聡*

Campylotropis macrocarpa (Bunge) Rehder naturalized at a valley of the Kamanashi River in Fujimi, Nagano Prefecture

筆者は2022年6月21日に、諏訪郡富士見町釜無川上流域の南アルプス鋸岳に至る林道周辺の植生調査を行った。その際、登山道入口から約4km下流の長野県側の川の斜面や林道法面を格子状に固めたコンクリート枠内で、マメ科のヤマハギに似た植物が多数開花しているのを確認し、標本を採集した。その後再度の野外調査や標本・文献等の調査を進めた結果、本植物はこれまで長野県では記録されていないハナハギ属(*Campylotropis*)の一種、ハナハギ *C. macrocarpa* (Bunge) Rehder であることがわかった。

ハナハギ属は花序軸から伸びた短い柄(小花柄)に1花を着け、またその花の龍骨弁の舷部が中央で著しく内曲し先が尖ること等で、近縁のハギ属(*Lespedeza*)から区別されている(Iokawa et al.,2002; Huang et al.,2010)。ハギ属では小花柄に通常2花をつけるが、釜無川で採集した植物にはハナハギ属の上記特徴を明瞭に確認することができる(写真1-3)。このハナハギ属はアジアの温帯域に37種ほどが分布し、分化の中心は中国である(Huang et al.,2010)。先行研究の報告(Iokawa et al.,2002; Huang et al.,2010)を参考に形態を調べると、釜無川産植物は葉に小托葉がなく、花序軸や小花柄に毛を密生、花のサイズが約1cm、旗弁の基部に緑色の斑紋、小葉が卵形から広楕円形で、そ

の長さが2-6cmである(写真2、3)、などの特徴を有することから、ハナハギに分類されることは間違いのないであろうと考えている。なお、本植物の標本は長野県環境保全研究所に寄贈した。

ハナハギは、モンゴル南部から中国の中部以北の地域、朝鮮半島などに分布する高さ1-2mの灌木である。日本国内では2000年に高知県土佐清水市内の林道で初めて生育が確認され、その3年後に発見者らによって海外からの帰化植物として報告された(大橋他,2003)。本種は、愛媛県(大橋他,2010)、山口県(三宅,2014)、神奈川県(2017)などからもその後報告されている。分布域の拡がりを感じられる。長野県では、長野県植物誌(長野県植物目録編纂委員会,1997)や長野県植物誌



写真1、川の斜面に生えるハナハギとその花 (2022.6.21)

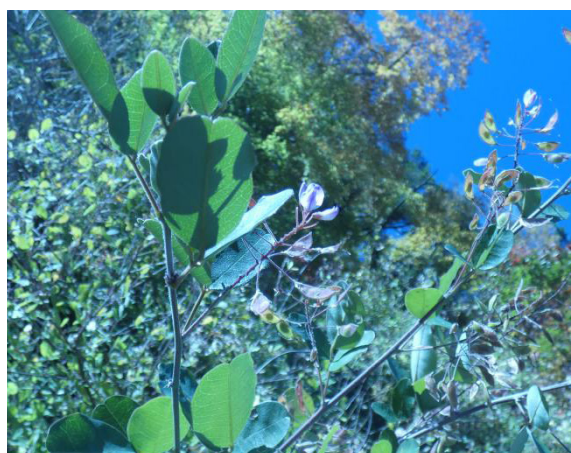


写真2、道路法面に生えるハナハギ (2022.6.21)

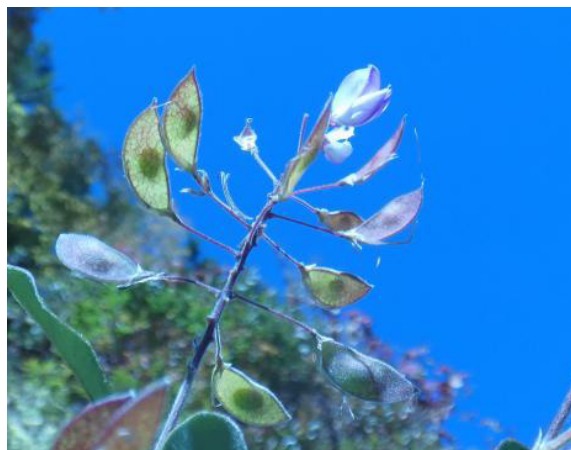


写真3、果実をつけたハナハギ (2023.10.24)

* 竹重 聡 長野県長野市 310ru.tks@gmail.com

改訂に向けてのチェックリスト（2017 年版）（長野県植物目録編纂委員会, 2017）、長野県外来植物目録（2018 年版）（長野県外来植物目録編纂委員会, 2018）等の中には本種の掲載がないことから、県内では初めての確認と思われる。ハナハギはイタチハギ等の外来種と共に林道の法面で確認されるケースが多い（大橋他, 2003；佐々木, 2017）。釜無川流域においても、本種は同様の環境下に生育することから、すでに大橋ら（2003）によって指摘されたように、林道の法面工事に伴って移入された可能性が高いのではないかと考えている。今後は他の地域でも確認できるか、注視していきたい。

謝辞

本報告をまとめるにあたり、標本の同定や文献等の収集にご協力くださった元東京都立大学准教授の菅原敬氏に感謝とお礼を申し上げます。また釜無川流域の工事用林道ゲートの通行手続きにご協力くださった五味直喜氏ならびに国交省富士川河川釜無川出張所の方々に感謝とお礼を申し上げます。

参考文献

Huang, P.-H., Ohashi, H. and Iokawa, Y. (2010)

- Campylotropis Bunge. In Flora of China (Wu, Z.Y., Reven, P. H. and Hong, D. Y., eds.) 10 (Fabaceae): 292-302. Science Press, Beijing, and Missouri Botanical Garden Press, St. Louis.
- Iokawa, Y. and Ohashi, H. (2002) A taxonomic study of the genus *Campylotropis* (Leguminosae) I. *Journal of Japanese Botany* 77: 179-222.
- 三宅貞敏（2014）山口氏（阿東・徳地ほか）地域で見出された中国産移入植物．山口県の自然 No.74：19－28.
- 長野県植物誌編纂委員会（1997）長野県植物誌．信濃毎日新聞社，長野．
- 長野県植物目録編纂委員会（2017）長野県植物目録：長野県植物誌改訂に向けてのチェックリスト，2017 年版．長野県植物目録編纂委員会．
- 長野県外来植物目録編纂委員会（2018）長野県外来植物目録，2018 年版．長野県外来植物目録編纂委員会
- 大橋広好・米倉浩司・小川 誠 (2003) マメ科の新帰化植物ハナハギ．*植物研究雑誌* 78: 54.
- 大橋広好・伊藤隆行之・大橋一晶（2010）マメ科の帰化植物 3 種．*植物研究雑誌* 85：47－50.
- 佐々木あや子（2017）ハナハギ属ハナハギについて類．*Flora Kanagawa* No. 84: 1004.